

今月のトピックス

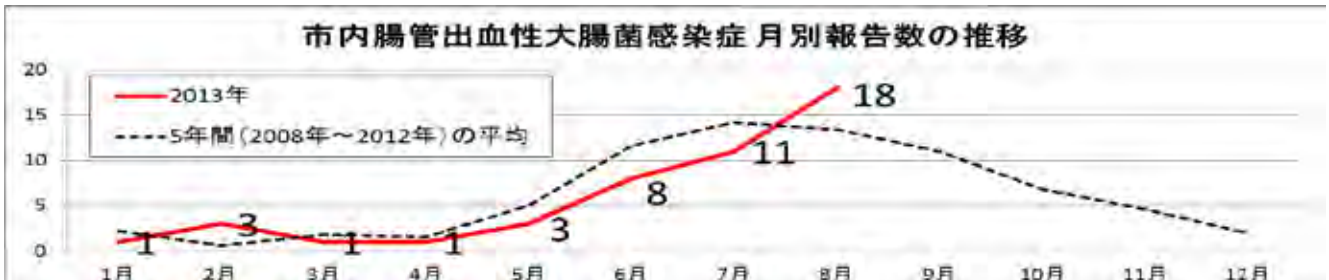
- Ⅰ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が増えています。
- Ⅰ 手足口病の流行が続いています。

全数把握の対象

【8 月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1 件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 件
腸管出血性大腸菌感染症	18 件	後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)	1 件
デング熱	3 件	梅毒	3 件
レプトスピラ症	1 件	風しん	12 件
アメーバ赤痢	1 件		

- 1 **細菌性赤痢**: *Shigella sonnei*(D 群)の報告が 1 件ありました。渡航先(カンボジア)での感染が推定されています。
- 2 **腸管出血性大腸菌感染症**: 18 件(O157 VT1VT2 9 件、O157 H7VT1VT2 1 件、O157 VT2 5 件、O157 VT1 1 件、O26 VT1 2 件)の報告がありました。このうち、4 件では同居家族内で感染者が確認されましたが、感染原因は調査中です。今月は 18 件報告されており、過去 5 年間(2008 年~2012 年)の 8 月の平均報告数(13.4 件)を上回っています。本症は例年これからの季節にも報告されるので注意が必要です。主な感染経路は 菌に汚染された飲食物を摂取する、患者の糞便で汚染されたものを口にする、であり、野菜などの食品を良く洗い、中心部まで加熱(75 で1分間以上)することが重要です。さらに、しっかりした手洗いが重要です。症状が出た際には、自分の判断で下痢止めを飲まないで、早めに医療機関を受診しましょう。詳しくは、「[O157 に注意しましょう](#)」(衛生研究所)をご参照ください。
[横浜市感染症臨時情報](#)(衛生研究所)



- 3 **デング熱**: 3 件の報告がありました。すべて海外(インドネシア、カンボジア、マレーシア)での感染が推定されています。近年、日本では年間発生数が増加傾向にありますが、すべて日本国外での感染で、タイ、インド、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、ラオス、カンボジアなどでの感染が多く報告されています。
- 4 **レプトスピラ症**: 1 件の報告がありました。沖縄西表島での水系感染です。
- 5 **アメーバ赤痢**: 腸管外アメーバ症(肝膿瘍)1 件の報告があり、国内での経口感染が推定されています。
- 6 **クロイツフェルト・ヤコブ病**: 古典型 CJD の報告が 1 件ありました。
- 7 **後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む)**: 1 件の無症状病原体保有者の報告があり、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- 8 **梅毒**: 3 件の報告があり、1 件は無症候期で感染経路感染地域等不明で、もう1件は早期顕症 期(初期硬結、硬性下疳、鼠径部リンパ節腫脹)で国内での異性間性的接触、残る1件は早期顕症 期(梅毒性バラ疹)で、国内での性的接触による感染が推定されています。
- 9 **風しん**: 12 件(男性 11 件、女性 1 件)の報告がありました。うち 11 件で予防接種歴が無



いか確認できませんでした。現在報告数は減少傾向ですが、まだ報告は続いています。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。予防接種の助成が実施されています。

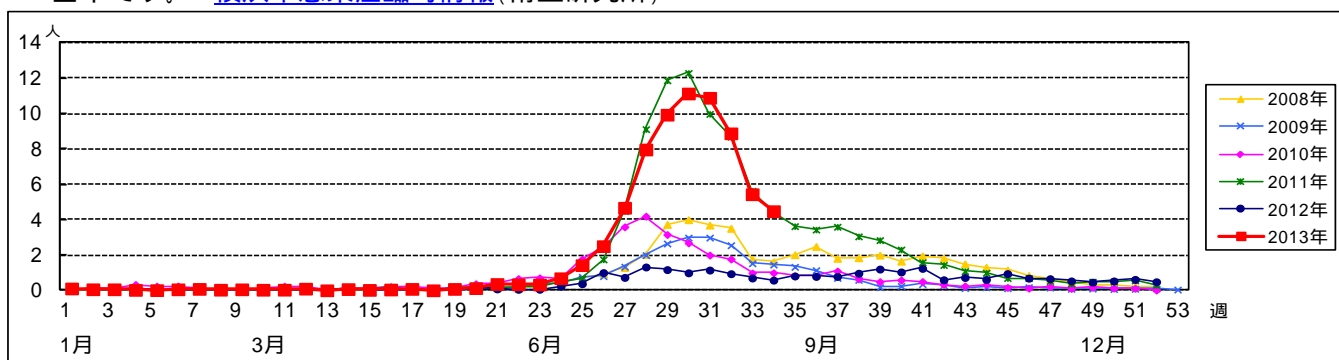
[横浜市感染症臨時情報](#) (衛生研究所)

[横浜市の風しん予防接種助成の詳細](#) (保健所)

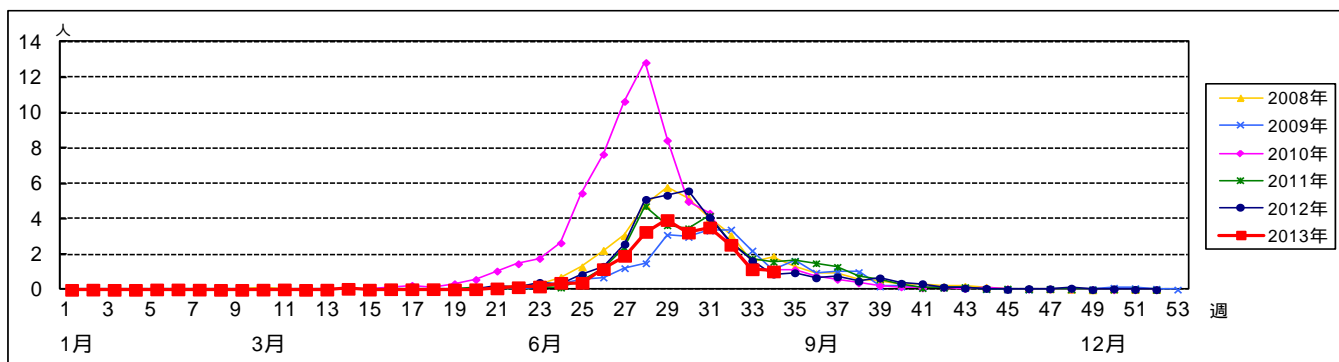
定点把握の対象

- 1 **手足口病**: 流行のピークは過ぎましたが、第 34 週は市全体で定点あたり 4.49 であり、警報レベル終息基準値 (2.00) を依然として上回っています。原因ウイルスでは今回の流行当初から、[全国で CA6 が多く検出](#)されており、現在も同様な傾向です。市内の病原体定点からも CA6 が多く検出されています。CA6 を病原とする手足口病は、水疱がかなり大きく、四肢末端に限局せずに広範囲に認められるといった**臨床的特徴**があり、罹患 1~2 か月後の爪甲脱落症も報告されています。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、乳幼児における感染予防は手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本です。 [横浜市感染症臨時情報](#) (衛生研究所)

平成 25 年 週 - 月日対照表	
第 30 週	7 月 22 ~ 28 日
第 31 週	7 月 29 ~ 8 月 4 日
第 32 週	8 月 5 ~ 11 日
第 33 週	8 月 12 ~ 18 日
第 34 週	8 月 19 ~ 25 日



- 2 **ヘルパンギーナ**: 市全体で第 34 週 1.04 と減少傾向ですが、区別では、瀬谷区 5.50、港南区 2.50 で警報レベル解除基準値 (2.00) を上回っています。



- 3 **性感染症**: 7 月は、性器クラミジア感染症は男性が 27 件、女性が 15 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 12 件、女性が 10 件です。尖圭コンジローマは男性 9 件、女性が 1 件でした。淋菌感染症は男性が 14 件、女性が 1 件でした。
- 4 **基幹定点週報**: 第 32 週に無菌性髄膜炎の報告が 1 件 (13 歳男児。带状疱疹、発熱 (40)、頭痛、異常行動あり。髄液、皮膚 (痂皮) から VZV (PCR+) 検出。) ありました。マイコプラズマ肺炎では第 30 週 0.50、第 31 週 0.25、第 32 週 0.00、第 33 週 0.67、第 34 週 1.00 と落ち着いています。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 5 **基幹定点月報**: 7 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 12 件、薬剤耐性アシネトバクター感染症 1 件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>